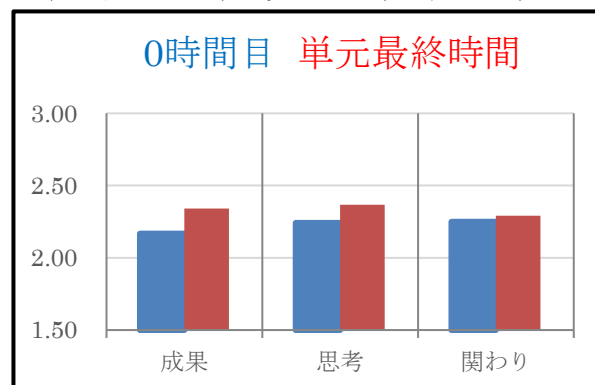
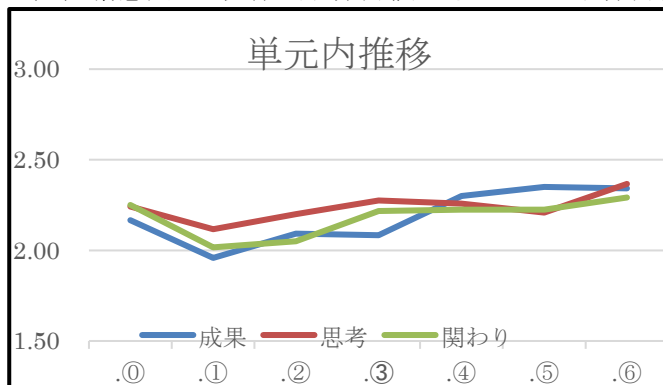


1 単元名 トトーンズ！ピッ！リズムよく、体を大きく使おう～膝掛け上がり～

(器械運動・鉄棒運動)

2 児童の変容

(1) 情意面 (形成的授業評価をもとにした授業評価から) 男子15名 女子15名 計30名



- ・「成果」は単元前よりも数値が高くなった。児童にとって目標とする技の難易度は高かったものの、スモールステップ表を用いて取り組んだため、達成感を味わいながら、活動することができたのだと考えられる。また、一人一人が自分の実態を把握し、それに合った練習に取り組むことができていたのだと考える。3時間目には数値が低くなってしまった。これは、技の難易度が高かったため、単元途中で自身の伸びを感じられなかったことが要因だと考える。
- ・「思考」は単元前よりも数値が高くなった。児童自身が課題を見つけ、練習方法を選択し、課題を解決するために思考しながら学習に取り組むことができていたからだと考えられる。また、正しい技の動画を見せたり、技能ポイントを伝えたりすることで、練習方法や、声掛けの仕方を考えることができていたことが要因の一つとして考えられる。
- ・「関わり」は単元前よりも数値が高くなった。3時間目に高い数値を記録したのは、自分の課題を見つけるために、スモールステップ表を用いながらグループの友達と学習を進めていったことが要因であると考えられる。また、自分たちで補助をし合ったり、「こういう練習をしてみたらどうか」「ここまでできているよ」などと声を掛け合ったりしながら学習している姿が見られた。

(2) 技能面

	①逆上がり			②バナナ振り		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	19	5	6	10	9	11
単元後	20	4	6	10	9	11

	③後方片膝掛け回転			④膝掛け上がり		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	13	7	10	3	10	17
単元後	14	7	9	5	10	15

- ・単元前と比較して数値の上昇が少し見られる。技能に直結する体ならしの運動を毎時間取り入れたり、既習となる技の練習を取り入れたりしたことが技能向上につながったと考えられる。
- ・もう少し難易度が低い技に挑戦したり、様々な技に繋がるような簡単な動きを練習したりしていきながら、自信をもってメインとなる技に取り組むことができるようにしていきたい。

(3) 思考面

問 頭はね跳びができるようになるために、どのような練習や取り組みが必要だと思いますか（しましたか）。（複数可）		
単元前		単元後
・足をたくさん振る練習をする	7	・助走のときや足を上げるときに、目印になるものがあると練習しやすかった 6
・タブレットで撮影して改善していく	2	・助走のときの動きやリズムを意識して取り組んだ 7
・上手な人にポイントを聞く	4	・振り戻るときに一気に膝を掛けた 9
・「トトーンスッ」のリズムを掴む	4	・上がるときに手首を返すことを意識した 7
・自分に合った練習場所で練習する	1	・振り足を思い切り振り下ろすことを意識した 5
・タイミングを意識する	1	・友達からアドバイスをしてもらった 4
・鉄棒に体を引き付ける練習をする	4	・スモールステップ表の順番で取り組んだ 2
・バナナ振りを意識する	6	・友達から補助をもらった 2
・足を入れ込む練習をする	5	・得意な人から動きをよく観察した 2
・勢いの付け方の練習	1	・自分に合ったやり方や練習場所を見つけた 1
・足が開くようにストレッチをする	1	

- ・膝掛け上がりの知識が定着し、技能ポイントを踏まえながら学習に取り組むことができていた。また、自分が考えたことを友達に伝えたり、できる児童の技を積極的に見たりして、アドバイスにつなげている児童が多く見られた。
- ・自己の課題解決に向けて自分が必要な場を選ぶだけでなく、教師に「もっとこのようにやってみたい」「このような道具があったら練習しやすい」など提案してくる場面も見られた。ペアやグループで課題解決に向けて積極的に学習を進めていくことができていたからだと考える。

3 成果と課題

高学年のめざす姿
課題に対しての自分の考えをもったり、仲間と試行錯誤したりするとともに、解決する場や方法を伝え合う児童

【成果】

- ・体ならし運動の際に、その動きがどのように技につながるのかについて声掛けをした。そうすることでポイントを意識しながらメインとなる技の練習に取り組むことができた。
- ・スモールステップ表を活用したことで、自分自身の実態や課題を把握しながら学習に取り組むことができていた。また、ペアやグループで互いの動きを見合う際にもスモールステップ表を活用しながら試行錯誤している姿があった。小さな目標があることで、達成感を積み上げることができ、自信につなげていくことができた。
- ・技能ポイントについて、写真や絵などを用いて、学習版に提示したことで、「もう少し遠くまで助走をするといいよ」「ここまでできているからもう少しだよ」などポイントを意識しながら友達同士見合うことができていた。
- ・学習カードを用いて自分の課題や友達の課題を再確認することで、スムーズに課題解決学習に取り組むことができていた。
- ・技能ポイントをしっかり理解できていたため、「〇〇だからもっと〇〇になると思う」「〇〇をしたから〇〇ができるようになった」など分かりやすく友達に伝える姿が多く見られた。

【課題】

- ・技の難易度が高く、できる児童が少なかったため、技の序盤の動きである「助走」の部分を重点的に行った。助走の仕方が上達し、鉄棒に足がかかる児童が増えていったが、その先の動きの見通しをあまりもたせることができなかったため、技の終盤の「上がる」まで到達することができなかった。
- ・技能ポイントは理解しているが、自分の体を使って実際に動いてみると、イメージしていることを上手く表現できない児童に対しての支援策を考えていきたい。